

---

第6回 江 府 町 議 会 定 例 会 議 録 (第2日)

平成28年9月8日(木曜日)

---

議事日程

平成28年9月8日 午前10時開議

日程第1 町政に対する一般質問

---

出席議員(9名)

1番 三好晋也	2番 竹茂幹根	3番 三輪英男
4番 川上富夫	5番 上原二郎	6番 越峠恵美子
7番 長岡邦一	9番 川端雄勇	10番 森田智

---

欠席議員(なし)

---

欠 員(1名)

---

事務局出席職員職氏名

事務局長 ..... 梅 林 茂 樹

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 .....	白 石 祐 治	総括課長 .....	瀬 島 明 正
住民課長 .....	森 田 哲 也	財務担当課長 .....	奥 田 慎 也
庶務・人権同和対策担当課長 .....			石 原 由 美 子
農林産業課長 .....	下 垣 吉 正	企画情報課長 .....	池 田 健 一
建設課長 .....	小 林 健 治	教育振興課長 .....	篠 田 寛 子
奥大山まちづくり推進課長	加 藤 邦 樹	社会教育課長 .....	生 田 志 保

---

午前10時00分開議

○議長(川上 富夫君) おはようございます。

本日の欠席通告はございません。全員出席であります。

本日、執行部の欠席が2名あります。会計管理者につきましては業務のため、あと、福祉保健課長も業務のためにきょうはどうしても出席がかないませんので、2名の欠席の報告をさせていただきます。

ただいまより平成28年第6回江府町議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

直ちに議事に入ります。

---

### 日程第1 町政に対する一般質問

○議長（川上 富夫君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。

なお、質問方式は1項目ごとに質問と答弁で進行しますが、再質問、再々質問があればその都度行います。

なお、1人につき質問、答弁を含めて60分を目途に行っていきます。

最初に、質問者、上原二郎議員の質問を許可します。

5番、上原二郎議員。

○議員（5番 上原 二郎君） 一般質問の前に、先輩議員であった田中議員の余りにも突然の訃報に接し驚くとともに、もし生きておられたら、白石新町長、一般質問は一番先にしたかっただろう、また、来年の選挙にももちろん出馬させていただこうと思うと、人間の運命のはかなさを思わずにはられません。今は静かに御冥福をお祈りいたします。

そうしますと、通告に従って質問したいと思います。

さて、このたび初当選された白石新町長は、「3,000人の楽しい町」の大きな目標を掲げられました。3,000人という数字に町長の意気込みを感じ、ぜひ一緒に頑張っていこうというふうに感じました。

町長は、そのための大きな柱として安全・安心・健康に暮らせる町、自己実現ができる町、未来に夢が描ける町を実現し、江府町が将来にわたって持続可能な魅力あるまちづくりを掲げておられます。

現在の江府町の状況は、出生者数と死亡者数の差である自然減が50人ぐらいあり、転入転出の差である社会減も30人前後となっています。死亡者数は余り変化はありませんが、出生者数が近年、大きく減少し、10数人となっています。社会減の大きな要因も、20代の学生の卒業

後の就職のための転出が大きな原因となっていると考えられます。これらのことから、人口減の大きな要因は20代から30代の若者の減少と捉えられます。今後、町長はどのようにしてこの現状を変えていかれるのか、いろいろなことがあると思いますが、具体的な方策について伺います。

また、若者定住のための住宅助成制度がありますが、UJIターンの若者に対してはこの助成制度がありますが、地元生まれ育ち、ここに住んでる者には現在、江府町には助成制度はありません。近年、視察に行った他町の例を見ますと、例えばですが、北海道に行ったときの京極町、これは1人当たり100万円の補助をやっております。これは、地元の人も家を建てる、新築すれば100万円を出すということをやっています。それから、同じく北海道で行った白老町ですが、ここでは町の宅地分譲地の購入費全額を補助しています。これも町内に住む者も同じです。それから、千葉県の睦沢町、これは、新築住宅の助成を50万円、まだいろいろなプラスアルファの形がありますが、基本的にはそういう形で町内に住む者も行っております。その他、いろいろところで同じような若者定住のための、地元にいる人たちのための補助というのを行っております。現在の江府町の人口の推移を見ると、地元の若者の転出をとめるためにはそういう政策もそろそろ取り入れる時期ではないかというふうに考えております。町長の見解を伺います。

次に、家庭内保育に対する補助です。教育環境は子育て世帯に大きな影響を及ぼします。現在、教育長不在の状態ですが、子育てをするならぜひ江府町でと、そういうすばらしい教育を提供していただくよう、強く願っております。個人的な考えですが、教育費は生まれてから大学まで基本的には無料にすべきと考える。特に保育園に関しては無料化すべきと考えていましたが、江府町では実現されました。その中で、県下の町村では、家庭内保育に対して補助を行い、子育て支援とともに保育士の不足を解消し、また、経費削減にもつなげるものだと、県とともに検討されています。この制度の現在の進行状況とともに町長の見解を伺います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 上原議員の一般質問に対してお答えしたいと思います。

まず初めに、私の目指す町ということで、3,000人の町を目指す、その具体的方策はということでお尋ねがございました。3,000人の町という数字だけではなくて、実は楽しいっていうのもつけておるんですけども、実はここには意味がございまして、一つは、おっしゃるように、何ていいますか、本当にこの選挙期間中といいますが、歩いてみて、人口減少、著しいと。特に、今おっしゃったように、毎年の自然減、そして社会減、これに伴ってだんだん活力が失われてく

るという実態を本当に受けて、そう思ったところでございます。これをいきなり数字を転換すると、数字のみ捉えていくと、とても至難のわざだということは重々承知しております。私が目指す方向というのは、ここに住んでる人が、やっぱり江府町はいいなと、楽しい町だと思って、生き生きと暮らしていけるところにその活路があると思っています。

そのためには、先ほど議員もおっしゃった3つの柱、掲げています。安全・安心・健康に暮らせる町、これ、実はきょうもすごい雨が降りました。すごい音で、私も4時ごろ目が覚めました。雨が降ると、すぐ警報をびくびくしてまして、3年前の7月の豪雨のことを思い出します。こういったところをやっぱりきっちり対応できて、安心に暮らせるというのは非常に大事なことだと思っておりますし、また、将来、熊本のような地震も起こるかもわかりません。そういったときのための対策もしっかり今から準備しておく。そういったことで住民の方の安全・安心を何とかするというのが基盤です。それとあわせて、やっぱり上下水道とか、あと、移動手段、交通手段、このあたりも大事です。そういったものをしっかり押さえていって、江府町は住むのにとってもいいなとまず思っただけということが重要だと思っています。

その次に自己実現ができる町っていうのを入れたのは、やっぱりいろんな取り組みがあると思います。例えば町をにぎやかにする取り組み、今でもひな祭りコレクションとかこいのぼりも、愛漁会ですか、愛漁会、やっておられます。そういったことをもっともっと起こっていくと、そういった活動が、やりたいと思っていることが実際できるという町にしていきたいと思います。あわせて、これ、産業振興もそうです。農業も含めてなんですけれども、やる気のある人が、こういったことをやってみたいと、こういったことで町を盛り上げたいと思われたときに、それはやっぱり行政がしっかり支援していくと。そういう形をやることによって、例えば外にいる人も、こういう江府町であれば来てみたいと思われるでしょうし、今、例えば一旦、外に出る子供たちも、ああ、こんな町だったら帰ってきたいと思えるんじゃないかなと思っています。

そのためにも、もう一つ、未来に夢が描ける町というのも言っているわけでございます、教育なり、そういった人づくりのところに力を入れようと言ったのはそういう観点から入れさせていただきました。

したがいまして、こういったいろんな施策を総合的に取り組むことによって、3,000人の楽しい町をつくっていきなというふうに思うところでございます。

2点目なんですけれども、若者定住のための住宅助成制度について御質問がございました。特に地元に住んでいる方についての手当てがないんじゃないかというお話でございました。これは、おっしゃるとおり、現在、町のほうには移住者を対象にした制度は従来からございますが、既に

住んでおられる方への手だてはございません。これは、実は意味合いといいますか、なぜそうなるかということもございます。

これは、移住者に対する制度っていうのは国とか県とかっていう、そういったところの財源措置というのがあって行われているということも一つございます。もう一つは、対象者が余りにも多くなるのではないかとということもあって、一般的な制度として入れてしまいますと、言ってみたら福祉みたいな形で、もうやめるにやめられないような形になってしまうということもございます。

ただ、おっしゃいましたように、3,000人の町を本当に目指していくのであれば、そういったことも、他県の例もありますが、いずれは考えていくときもあろうかと思えます。そういうことのために、現在、転入、転出をされる方にアンケート調査をすることにいたしました。それで、なぜ江府町から出ていかれるのかとか、そういったものを聞きながら、実態をきっちり把握した上で施策のほうを考えてみたいというふうに思っております。

3点目ですけれども、家庭内保育に対する補助についての御質問でした。議員もおっしゃいましたが、江府町におきましては、27年の9月からもう県内に先駆けまして保育料の完全無料化ということで、子育て家庭の負担を軽減しているところでございます。お話のありました家庭内保育の補助につきましては、これはちょっといろいろ調べてみますと、やはりまだ待機児童がおられて、自分のところの保育園ではなかなかもう受け入れができないと。受け入れ体制をつくろうと思うとそれなりに経費もかかってきます。ですので、家庭で見いただくほうに施策誘導するためにそういう制度を設けておられる町もございます。例えば伯耆町であるとか湯梨浜町などは既に実施をされております。本町の場合を考えたときに、現在、まだ待機児童ございません。そういう状況でございますので、家庭内保育の取り組みを緊急に行うという必要は現在のところはないだろうというふうに思っています。ただ、今後、今、無料化してますので、入園児の数がふえるかもわかりません。そういったような動向でありますとか、あるいは町民の皆さんからの声がございましたら、それを参考にしながら具体的な検討をすることも考えてみたいというふうに思ってます。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

上原議員。

○議員（5番 上原 二郎君） 3,000人の楽しい町ということで掲げられた、その3,000人という数字が非常に厳しいといいますか、高い目標。私はあえて3,000人ということをおっしゃったと思いますが、非常に目標としてはいいなと感じております。2,000人ではちょっと寂しい

など若干思っていますが、この3,000人ということをもまず掲げて、そこに向かっていくんだということだと思えます。

先ほど具体的な話、いろいろありましたが、現在、江府町から出て、よそに勤めている者、大学に行ってる者、彼らが江府町に帰ってきたくないのかどうかということですが、私が知っている限り、ぜひ帰ってきたいという若者が最近、どんどんふえてるようになってます。私の息子、娘、周辺を聞いても、ぜひ実は帰りたいんだ、田舎志向といいますか、都会が非常に今の若者にとっては住みにくい場所になってる。ですから、特に地元出身の子供たちは、例えば仕事があって、仕事は米子でも構いません、西部圏で仕事があればぜひ帰りたいという、そういう若者がふえてる。都会で生まれ育った若者も同様であります。ですから、どこもそういう方たちを自分の町へということで努力はしておりますが、江府町もぜひ負けないように、特に地元の子供、出すほうも、それから帰ってくるほうもぜひ力を入れて、そこをまず押さえるということが非常に重要だと考えています。若い人が残れば、当然に子供の出生数はふえます。そうすれば、学校が例えば10人とか十二、三人という学級でちょっと寂しいですが、子供がふえればいろんな意味でにぎやかになってくるのではというふうに考えますので、ぜひその辺のことを念頭に置いて、今後の具体的な政策をよろしく願います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） ありがとうございます。私も、議員のおっしゃるとおりだと思います。ちょっとたとえが悪いかもしれませんが、昔、企業誘致をやったときの例を言いますと、新規に企業さんを引っ張ってくるよりも、今ある企業さんを増設してもらうほうが効率的です。確実です。下手な鉄砲、たくさん打っても、なかなか企業さん、来ません。そのかわり、地盤が江府町にある、そういった人であればより帰ってきていただきやすくなるというのは、もうそういったことから明らかだと思います。全くイコールかどうかは別として、そういった経験もありますので、ぜひ、江府町から一旦出られても、あるいは住んでいて、仕事がある人もあると思います。どんどんよさをアピールしていただくようなことも考えて、Uターンなどの促進を図っていきたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。（「ありません」と呼ぶ者あり）

それでは、次の質問を行ってください。

上原議員、庁舎建設について。

○議員（5番 上原 二郎君） それでは、庁舎建設について伺います。

現在の役場庁舎は築50年以上たち、耐震になっておらず、町長の大きな課題であります。町村合併の当時の経緯からJA江府支所の隣に防災情報センターを建設し、庁舎建設はこの建物とJA江府支所の利用という考え方に縛られていたように感じています。阪神大震災、東北大震災、最近の熊本地震や東北、北海道を襲った台風など、100年、200年に1度と言われる大自然災害が発生しています。ことしの猛暑に見られるように、地球温暖化が原因とも言われており、そうであれば、江府町においてもいつその自然の猛威が襲ってくるかはわかりません。庁舎は住民サービスを提供するとともに、住民を守る重要な施設であります。将来に禍根を残すことのないよう十分議論し、建設に当たる必要があると考えていますが、庁舎建設に対する町長の見解を伺います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 庁舎建設についてのお尋ねでございました。議員がおっしゃるとおり、庁舎建設は非常に重要な問題でございます。特に私の掲げております安全・安心・健康に暮らせる町、これを目指すためにはやっぱり防災拠点として役場庁舎の役割というのは極めて重要であるというふうに認識しております。それとあわせて、現在の庁舎、これ、4カ所に分かれております。住民サービスを向上させるといったことから、あるいはこのたび職員にアンケート調査といいますか、レポートを出してもらったんですけれども、その中でもかなり意見が出たのが、情報の共有ができないという話もありました。そういった職員間の情報共有を図るためにも、さらに維持管理コスト、これが分かれているためにかさんでおります。そういったものを解消するためにもやはり1カ所に統合するのが必要であるというふうに考えております。

ただ、この庁舎建設といいますと、もう御承知のとおり、多額の経費が必要になってまいります。なおかつ、一度整備いたしますと、本当に長期間にわたって住民サービスの拠点として使っていけないといけないということになります。ですので、軽々に決めてしまうということではなく、やはりこういった機能が必要であって、その機能を満たすためにはどのような規模が必要であって、しかし、そうはいつでも、それはぜひたくではいけないと思います。必要最小限でその機能が果たせる、そういった規模を考えて、なおかつ、整備経費でありますとか、あるいは、今はそういったいろんな支援制度、全くないわけなんですけど、これについて例えば働きかけを行って、国とかに、何とか少しでも資金を調達できないかとか、そういったこと、あるいは維持管理経費をどうやったら下げることができるのかとか、そういったことを十分検討して、なおかつ、それを議員さんを初め、町民の皆さんに提示して、御意見なりお考えをまたいただいて、考えて

みたいと思います。その辺の具体的な検討を始めてみたいというふうに考えております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

上原二郎議員。

○議員（5番 上原 二郎君） 今、町長からの答弁の中で、はっきりとはおっしゃられませんでしたが、今までの経緯にとらわれず、もう一回、一からたたき上げて、庁舎建設については議論を尽くしたいというふうな趣旨であったかなと、今までの経緯も含めて、今後の検討ももう一回やりたいということだと思います。私も、ぜひ新しい町長になりましたので、庁舎建設について議会とももう一度議論をするという。今定例会の中でそういう議論をするということの日程が組まれております。ぜひその中でまた議論をしていきたいと思いますので、よろしく願います。以上です。

○議長（川上 富夫君） もし答弁がありましたら。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） おっしゃるとおりでございます。ちょっと言葉足らずだったかもしれませんが、当然、今までの検討経緯はあるとは思いますが、ただ、それはそれとして、先ほど申し上げたような考え方がいいますか、やっぱりきちっと積み上げていくということも大事だと思いますので、また、特別委員会のほうでも御議論いただきながら進めさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

これで上原二郎議員の一般質問は終了いたします。

○議長（川上 富夫君） 続いて、質問者、三好晋也議員の質問を許可します。

1番、三好晋也議員。

○議員（1番 三好 晋也君） 本日は、これからの江府町のかじ取り役を担われることとなった新町長に対し、激励の意味を込めて質問をさせていただきたいと思っております。

8月3日、臨時議会の所信表明において、3,000人の楽しい町を目標に掲げられました。誰にもわかりやすく、なおかつ、高い目標であるとは思いますが、白石町長の強い意志を感じました。私自身、感銘を受けたところでございます。3,000人が達成できなかったらどう責任をとるんだというような後ろ向きな考えではなく、ぜひともこの目標が達成できるよう、議会も一緒になって議論を尽くし、政策提案をしながら進めてまいりたいと思っております。

まず、最初の質問ですが、町報8月号において、庁舎内での就任挨拶の内容が掲載されておりました。人口3,000人の小さな町では、役場機能は非常に大きいと思う。そこで、3つのことを実践してもらいたい。まずは、住民目線。困り事や相談は一つずつ丁寧にくみ上げてほしい。次に、当事者意識。自分自身のこととして物事を捉え、部署を超えてチームワークを発揮し、風通しのよい環境で問題解決に向かってほしい。最後は、挑戦。予算がない、前例がないということ諦めることが多かったが、どうすれば前に進むのかを考え、どんどん挑戦してほしいと思う。以上の3点を心にとめて、これからの町政を一緒に盛り上げていきましょうと述べられました。そこで、現状をどのように町長、捉えておられるのか、また、そのための人材育成についてどう考えておられるのか、伺いたいと思います。以上です。

済みません、もう一つありました。

次の質問ですが、次に、所信表明の中で、安心・安全・健康に暮らせる町の中から、町内には高齢者の方がたくさんおられます。保健・医療・福祉サービスの充実や移動手段の確保・改善等、健康で文化的な生活をしっかりと支えていきますと述べられました。

そこで、提案です。町道を走ることでできる小型のデマンドバスを導入する考えはないか、伺いたいと思います。当然のことながら、隣の伯耆町のデマンドバスを念頭に置いての質問でございます。スクールバス事業、デマンドバス事業、外出支援サービス事業等であります。国道や県道を走るだけの町営バスだけでは、高齢者の生活の足としては不十分だと思います。また、江府小学校に直接スクールバスが乗り入れることができれば、児童生徒の自宅付近から学校まで安心だということになると思いますが、町長の御所見を伺います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 三好議員の御質問にお答えいたします。

まず、1点目なんですけれども、私が庁内会で職員に対していろいろと申し上げた住民目線、当事者意識、挑戦、これは議会のほうでも申し上げましたけれども、それについて、現状をどのように捉えているかというお話がまずございました。これは、私、ずっと考えておりました。といますのは、職員に対してそういうふうに3つのことを申し上げましたけれども、実は副町長として3年間、江府町役場に勤務した経験がございます。それは自分自身のことも含めてなんですけれども、やはりまだまだここが本当にできていると言われると、これから頑張らなければいけないなど。これは自分も含めてです。本当に住民目線、住民の方の声を聞いてやってるのかと。自分の都合でやっていないとか、それはもう反省するところもあるんじゃないかと、

自分でも、これは自分が副町長のときに思って、選挙で回ってみると住民さんの声っていうのはすごくやっぱり強烈に来るもんですから、これを改めて認識させられたものです。ですので、これをあえて本当にこのたびも言わせていただいたところです。ですので、まだまだこれから取り組んでいかなければいけないというふうに思っています。

当事者意識につきましても、やはり役所ということもあって、これ、どこの役所もそうなんですけど、結構、縦割りというか、職場職場でのことしか考えていないということが多く見られます。ですんで、江府町役場はこんなに小さい役場ですんで、それを破って、何とか一つになって向かっていきたいという思いを込めて、ですので、現状はまだまだできてないと思います。ですんで、それを何とかしたいということで上げました。

それと、挑戦という言葉ですけども、これも、まだまだこれからです。出るくいは打たれると申しますが、やっぱり出過ぎたことをするとやられてしまうことも多いので、それと、あとやっぱり謙虚な町民性ということもあろうかと思しますので、なかなか一步前に出ることができづらかったところがあるかもしれません。でも、私は、あえてそれをやってほしいという気持ちです。先ほどから3,000人の話が出てますけれども、そういったちょっと高いハードルを乗り越えようと思ったときは、多少難しくても、今までの殻を破らないと向かえないと思っています。ですので、まだまだですけども、それを目指していきたいというふうに思っています。

ただ、今、就任からまだ1カ月しかたっておりませんが、少しずつ変化の兆しが見えてるところもございます。それは、ちょっと例を申し上げますと、たまたま死亡届を出されに来た方がありました。その方は、おじいさんがおばあさんの、寝たきりのおばあさんの介護をされてました。そのおじいさんが亡くなりました。どうしようと、誰が面倒見るんだと。その息子さんは米子のほうに住んでおられて、もう本当に困っておられた。そのときに、福祉のほうの職員がきちっと施設のケアマネにつないで、うまく、本当に非常にスピーディーに入居できるところまで段取りをつけてあげたと。これ、非常にスピード感があって、いい対応だったなというふうに思っています。

それと、もう1点、これ、日曜日だったんですけど、移住定住の話、江府町にもちょっと来てみたいんだけどなっていう話で、日曜日に来られたんですけど、倉吉のほうからですけど、役場がどこにあるかわからないので、防災情報センターがあいてたので、そこに来られたと。そして、その司書さんが担当でもないのにちゃんとつないで、教えてあげたと。縦割り、もう超えて取り組んでおられる例がございます。

それと、もう一つ、これは住民の方から、住民票をとりにお昼に本庁舎の窓口に来たけど、受

付っていますか、カウンターの後ろで弁当を食べとったと。こういうことは民間ではないというお話をいただいて、すぐ庁内といいますか、で議論をして、改善しようということでやりました。8月29日から、ちょっと遅いんですけども、順番で弁当を食べることにして、もう今は本庁舎のカウンターの後ろではお昼は弁当をあけることはありません。

こういったできることを一つずつふやして行って、やればできるんだと、そういう自信を職員はみんな持って、これを職場の風土として根づかせたいなというふうに思っています。

続いて、人材育成のほうにも行くんですけども、お話がありましたけども、やっぱり役場は非常にたくさん職員もいて、大きな職場になっています。ですから、職員の資質を向上するということは、住民サービスの向上はもちろんでありますけども、江府町を魅力ある町にするためには必要不可欠です。ここがよくなれば絶対に町自体の魅力が上がります。これは間違いないと思います。ですので、ここは本当に私も職員と一丸となって、その辺の向上を目指したいと。具体的な人材育成のやり方につきましては、総務課が中心になってやると思いますが、早期、これ、計画もあるんですけども、具体的に進めるように私のほうから指示を出していきたいというふうに思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 町長、デマンドバス。

○町長（白石 祐治君） 失礼しました。2番目のデマンドバスの件でございます。伯耆町の例を挙げて御提案いただきましたけども、安全・安心・健康に暮らせる町ということで、それを実現するためには町民の移動手段の確保というのは最重要課題だというふうに思っています。実際、今の江府町、町営バスを運行しているのとあわせて、タクシー助成券を発行して移動手段の確保をやっているところでございますけども、これは、私が副町長やめてから町の方にもいろいろ聞くんですが、やっぱり大きな町営バスがほとんど人を乗せずに走っている、これ、どうにかならないかっていうお話も聞きました。私もいろいろ知っている鳥取大学の先生とかにも話を聞いたりもしたんですけども、8月になって就任した後、実際、事業者の方にも声を聞いてみました。その中で、小型のデマンドバス導入も、そういった、おっしゃったように移動手段の確保の一つにはなるとは思いますけれども、なかなか事業者の方、ちょっと聞いてみますと、実績としてはなかなか乗っていないってようなこともあるようです。ですので、その中で、タクシーというのが、実は経費かかりますけど、究極のデマンドだということもありました。ですので、いま一度、デマンドバスのことも含めて町営バス、それとタクシーの使い方、こういったものをあわせて検討していかないといけないんじゃないかなと思います。ある程度やっぱり将来を見越したものと、あと数字、こういったもので御説明させていただいて、どういう形が一番いいのかを議

論させていただけたらと思います。その場合、また、地域公共交通会議とかございますんで、そういった機関とも協議しながら、町民の移動手段の確保について確保されるような方策を検討してまいりたいというふうに思います。以上でございます。失礼いたしました。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

三好議員。

○議員（1番 三好 晋也君） 最初の質問に関連することなんですけども、町長の率直な現状分析、全くそのとおりだと思います。同感だと思います。ぜひそこら辺を、先ほど上原議員の質問に対する答弁の中にもありました、横の連携がなかなかとれません、これもそのとおり。これは住民自身も結局どこ行きゃいいんだということなんです。この間から昼休みの対応等、フレックスで休憩をとる、この情報を得たときに、ああ、やっと動き出したんだな、遅かったなということも感じましたけど、とりあえず一歩動き出したかなという思いがしております。

私自身は、ことし春の議会の住民懇談会の中で、恥ずかしながら初めて知ったんですけど、各集落にそれぞれ役場職員、担当がつけてあるという話ですね。私も、親にかわってから数十年、じげの寄り合いなんかに出てますけど、全く知りませんでした。地域はそういう認識しかないです。それでは町長が掲げておられる庁舎内の体制っていうのはなかなか、これは一つの具体的な施策だと思います。ちょっと担当をつけて。これが動いていかないと、幾らかけ声ばかりかけとって絵に描いた餅になるんじゃないかなと。もう本当に細かい具体策、アクションなんですよね。ぜひそこら辺のことについても取り組んでいただけたらというふうに思います。

昨年、行政視察で宮崎の諸塚村、行きました。諸塚方式、それから、各集落に対しての組織の中に役場職員が入っていくいうやり方、それに対する具体的な成果等々はなかなか聞いてはこれなかったんですけど、まず、そういう体制も当然じゃないかなというふうに思います。このところ、各集落、毎年、町長と語る会やってます。要望事項出して、それに対する町長の返答を伺ってます。全く不十分です。なかなか町長を目の前にして、言いたいことも言えないという住民の方もいらっしゃいます、はっきり言って。そういうことも考えましたら、もうちょっと担当職員があるならば、そこら辺のことを、例えばこういう事業を、何か事業をしたいと、集落でそういう話になったら、それについてはこういう補助金が出るよということをしすぐその場で集会におられる担当職員さんが提案できれば、非常にスピーディーにサービスを受けれるということになるんじゃないですか。個別にはそういうことを積極的に集落で提案してる職員さんの話も聞いてます、個別には。聞いてますけども、それが全てじゃない。ましてや、それがまた、きちっとそういう役場の行政のサービスのシステムの中での話か、その職員さんの自分的な思いだけでやって発言、

提案されたのかわかりませんが、そういう方もいらっしゃるんです。それがきちっとシステム化できればなというふうに思います。

デマンドバスについて、限りなくタクシーに近いデマンドバス、これは全く同感です。決して小型デマンドバスに固執する気はないです。うちの近所の80歳のおばあさんが、あいきょうにひまわり号で毎日買い物してるんだけど、何とか道の駅に行って新鮮な野菜を買いだいたいんだけど、どうしたって行かれない、非常に残念だという意見を聞きました。これを実現可能にするにはどうしたらいいのかなというふうに思います。それはタクシーが一番いいんです、たくさんあれば。朝、日野病院にタクシーで行かれる方、たくさんいらっしゃいます。なかなかスピーディーにはいきません。台数、限りあります。これが少しでも改善できればなという思いでございます。何か御意見ございませんか。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 2点ございました。1つは、集落担当職員の件でございます。この件に関しては、私も実は同感です。といいますのは、現状は本当に町報配ったりとか、それぐらいで終わっています。ですので、本当に集落のことを考えて、いろいろ相談に乗ってあげて、解決策を見出すというようなことは重要であると思います。実際、若桜町さんなんですけど、これ、若桜町の町長さんに聞いたんですけど、集落担当職員というのはやはりいて、これ、1年間に1回は全部の家回るそうです、その集落担当職員が。そこでいろんな意見をいただいたものをまた持ち帰って検討するというようなこともされてるようです。それはまだ私も、これはちょっといろいろ職員の負担もあるもんですから、中ではまだ提案をしておりませんが、気持ちの中ではそういったこともいずれは考えてみようかなとは思っていました。それとあわせて、集落担当職員がそれぞれの集落の方のアドバイザーじゃないですけど、中に入り込んで、一緒になって考えてあげるといったようなことは、これは今からでもできることですので、これは早速やるようにしてみたいと思います。

そこで、あと、語る会の話が出ました。実際、今、もう実は1件入ってるのがございます、ある地区で。この場合の出席する職員というのが、実は1人はもう担当職員というのが下蚊屋の人なんで、下蚊屋でしたか。（発言する者あり）助沢。ごめんなさい。済みません。助沢です。助沢の人なので、この人はその場に出ます。それ以外に1人、別の職員が出ますので、今回は直接入っているの、そこまでのことは言わなくてもできるのかなというふうに思っています。集落担当職員と語る会については、今後、実際に集落の方に喜んでいただけるような形で仕組んでみ

たいなと思っております。

デマンドバスの件で、確かにおっしゃいましたように、タクシーの台数も限界があります。実際、今、4台です。これも日野町と江府町、両方合わせて4台です。ですので、これで全てが解決できるわけではないのかなというふうには思います。ですので、先ほどの検討すると言った中には、例えば町内を横巡回するような、主要施設を回って道の駅も行けるといようなことや、やはり考えていかなければいけないのではなかろうかなとは思っておりますので、先ほどの検討の中に入れ込んで考えたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。（「ありません」と呼ぶ者あり）

これで三好晋也議員の一般質問は終了します。

○議長（川上 富夫君） ここで10分ほど休憩して、次に入りたいと思います。よろしくお願います。開会は55分、10時55分に次の質問を進めます。

午前10時45分休憩

午前10時54分再開

○議長（川上 富夫君） 再開いたします。

続きまして、質問者、三輪英男議員の質問を許可します。白石町長の行財政の取り組みについて、お願います。

3番、三輪英男議員。

○議員（3番 三輪 英男君） そうしますと、白石新町長の行財政の取り組みについてということでお尋ねしたいと思いますが、先ほど来から、私の通告のは大分、二方とかぶってるところがございますので、その内容は私も理解できたところでございますけども、取り組みについての前に、実は先ほど出てましたが、町民は白石新町長にかなり期待しております。何から手をつけてくれる、何をしてくれるんだろうか、いわゆる結果を求める声が、もう町内回っていますとかなり出ていることが感じられます。その折に、結果というのはやはりそれはもう皆さんと町民との共通理解した上でないとなかなかその成果として出てこないでしょうかという、そういう話で終わりにするんですけども、いずれにしても、12年ぶりに町長がかわられて、もちろん期待が大だと思っておりますけども、その辺を肝に据えていただいて、よろしくお願したいと思います。

まず最初に、行財政の取り組みについてでございますが、地方創生総合戦略の一丁目一番地と申しますか、行財政の基本的な取り組みについてお伺い申し上げます。町長に御就任が8月1日

ということで、平成28年度の予算の執行は4カ月が経過しております。選挙前の公約及び町長への当選後の抱負などから見たときに、白石町長の目指す、江府町の進むべき方向性について、行財政を中心に見解をお伺いします。

○議長（川上 富夫君） では、答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 三輪議員の御質問にお答えいたします。行財政の取り組みについてを中心に、どうやってこれからやっていくのかというお話でございました。最初に、その質問の前に触れていただきましたけども、期待していただくと非常にうれしいです。ただ、結果の話もございます。一朝一夕に結果が出るとは思っておりませんし、そのためのやっぱり基盤っていいですか、それをつくって行って初めて実が結ぶものというふうに思っておりますので、そのあたりにつきましては御理解をいただきたいと思えます。

先ほどからずっと話が出てきております、3,000人の楽しい町を話ししておりましたけれども、ちょっと視点を変えまして、実際にまちづくりをやるときに、やっぱり攻めと守りという2つの観点があると思えます。攻めというのは、地方創生でずっと今まで私もかかわってきておったんですけれども、その中にやっぱりすばらしい自然環境、江府町が持ってます宝です、そういったものを生かしました農産品あるいは特産品、そういったものの開発、あるいは道の駅、あるいは誘致企業がこれからまた増設というようなこともございます。そういったものとうまく連携させて産業振興を行うと。それと、あと、大山1300年祭ってというようなことで、観光にもスポットが当たってまいります。ですので、西部地域が一体となって人を呼んで、取り込んで、この江府町にお金を落とさせていただくようなことをやっていきたい。あわせて、これは人口増にもつながるんですが、移住定住の取り組みなどもやっていきたい。そのためにはやっぱり情報発信がとても大事だというふうに思っておりますので、どんどんいいところをアピールしてまいりますというふうに思っています。

私、攻めのほうは割と得意なんですけど、もう一つの観点、守りというのがあります。こちらを、自分の弱いところをやっぱりきちっと押さえていかないと成り立たないと思っておりますので、どちらかという、私は守りのほうですね、力点を置いてやっていきたいなというふうに思っています、自分自身はですね。それは、先ほどから出てますけど、やっぱり災害、そういったものに対する対策、ここはきちっとやっていきたい。あと、やっぱり子育て、医療、福祉、それから交通関係、あるいは上下水道、インフラ整備、老朽化してくるものもいっぱい出てまいります。そのような対策をとっていかないといけません。これは、目立ちませんけども、とっても大事な

部分ですので、こういったところにやっぱりきちっと、うまく財源も利用しながら手当てをしていきたいというふうに思っています。そういった攻めと守りのバランスをとりながら行財政運営をしていきたい。

最後に、一つ、大きな目玉というか、結果も含めてなんですが、やはり庁舎建設というのは財政問題も含めて大きな課題であるというふうに思っております。こちらにつきましては、本当に慎重審議、議員の皆様の御意見もいただいて、必ず形にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、三輪英男議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 大変力強いお言葉、ありがとうございました。

そこで、1点だけ、先ほど冒頭で上原議員の質問にお答えになっていましたのですが、いわゆる昨日上程されました地域おこし協力隊の300万円、これが表に出たときに、そうすると地元の人、定住の支援はどうだという動きが先ほどちょっとありましたけども、それとの整合性といいますか、そういうものが恐らく出てくる可能性があると思うんですね。そういったときに、今、町長、言われたようなことで、地元の地に足をつけた形でやはりそれも理解していただくということをぜひともお願いしたいと思います。よろしく。

○議長（川上 富夫君） もし答弁あれば。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） なかなか答弁が難しいんですけども、そういった、ぱっと目立つところっていうのは確かにございます。外から来た者ばかり何だいやっていう話も確かにございます。ですので、やはり、私、先ほどからずっと申し上げてますけど、ここに住んでる人が満足していただくというのがまず先決であって、そんなところだから帰ってきたいとか来てみたいという世界になるという論理でいっておりますので、そこの視点は欠落することのないように努めていきたいというふうに思っています。以上です。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

再々質問があれば許可します。

それでは、次の質問を行ってください。

○議員（3番 三輪 英男君） 次の質問も、これも前の方々とダブっておりますので、大体私がお聞きしたいことも先ほどの答弁で聞いたような感じいたします。

ただ、1点だけ、ここで3つ目として、未来に夢が描ける町というふうに掲げていらっしゃる

ますけども、これのいわゆる基本的なシミュレーションというものも、今すぐにはお持ちでないかもしれませんが、どういう方向性に向かっていかれるのか、現時点で状況を教えていただければありがたいと思います。

あと、2つの安心・安全、それから自己実現、これは先ほどいろんな話が出ておりましたので、結構だと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 失礼します。三輪議員のお尋ねの中で、特に未来に夢が描ける町について、どうだというお話でございました。これに関しては、子育て支援でありますとか教育でありますとか、子供たち、これから江府町を担っていく子供たちにやっぱり江府町にもう一回帰ってきたいとか、あるいはずっと住みたいとか、そういった思いを抱いていただけるようなまちづくりをしていきたい。実際、かなり教育関係、充実していると私は思っています。支援も充実していると思っています。さらに言うと、いもこ塾とか、ああいったものもやりながら、結構、外に向けてもアピールしていけるんじゃないかなというふうに思っています。

一つ、新しい視点で考えてますのは、中学生と小学生に、小学生の高学年ぐらいに一緒になって、この子たちが10年たつと大体20歳から25とか、そのぐらいになると思います、ですので、多分外に一回出るんじゃないかなと思います、そのときに、こういう江府町だったら将来、帰ってきてみたいというようなビジョンを描いてもらいたいなと思っています。なかなか今年度すぐやるというのは難しいと思いますけども、来年度でも、そういった子供たちに江府町の夢を描いてもらいたい。それに対して我々も努力していくってというようなことで、将来の絵を描いて頑張っていきたいなというふうに思っています。御理解いただければと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、三輪英男議員。

○議員（3番 三輪 英男君） ありがとうございます。今のお話で関連しまして、実は28年度の予算はもう骨格じゃなしに、何ていいますか、通常の本格予算で計上させてますので、それだけ新町長の技量が発揮されるには29年度になるかなという感はありますけども、ぜひその辺のつなぎをきちんとしていただいて、成果が、単に成果だけを求めてはいけませんけども、ぜひ前向きな御検討していただいて、補正でどれだけかかるかわかりませんが、財源の問題がありますから、ただ、方向性だけは明らかにしていただいて、住民と我々が共通理解のところに町長

特化していただけるように御努力をお願いしたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁があれば。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 今、議員のおっしゃいましたように、28年度予算は本格予算が組んでありまして、余地を入れる余地はなかろうかなと思います。ただ、29年度当初予算を受けまして、実は1点、職員に対して既に言っていることは、これ、実は先ほどもちょっと三好議員のところで申し上げたかもしれないですけど、職員のレポートをした際に、なかなかやっぱり仕事量が多くて、人が少ないという話も聞いています。ですので、事業の見直しといいますか、もう一回、住民視点は変えないです、住民視点を生かした状態で、本当にこの事業が意味があってやっているのか、あるいはちょっと変えればもっとよくなるんじゃないかとかというようなことを検討できないかということを考えています。本当であれば、予算編成時期からそういうことをやるんですが、早目にそういったことに取り組んでいって、限られた予算を有効に使えるようにしてもらいたいと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

そうしましたら、次の質問を行ってください。

3番、三輪英男議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 続きましては、当選されました後に新聞報道等に出ておりますけれども、具体的な事業について伺いたいと思います。

まず、第1点、江尾診療所の公営企業化ということが見出しで出てまいりました。私も、どういことになるのかなと、それなりに勉強させていただきました。といいますと、それは新聞報道にありましたけども、このことは今までなかった新しいアプローチを使ったんだと思っております。そこで、ここ数年、地方公営企業法の一部適用から全部適用に移行する病院がふえておられるということでございます。全部適用の狙いは、病院経営に収益をより一層上げるための企業的手法を導入し、効率化を徹底すると。町長の目指される公営企業化は、一部なのか、それとも全部適用でしょうか。まず、それをもって伺いたします。

参考まで、自治体の病院事業費は地方公営企業法のうち一定の部分、経営の原則、企業の設置、財務等々、これにしか適用されません。このように一定の部分が適用される企業を一部適用の企業と言われ、これに対して、当然に適用されない部分を含めて、公営企業法を全面的に適用する病院事業を全部適用の企業と呼ばれてるというふうはこの本にも書いてありました。そういう理解でよろしいでしょうか。あわせて町長の御見解をお伺いいたします。

続きまして、ちょっとまとめて言っちゃいますけど、よろしいですか。保健・福祉・医療の充実につきましては、こちらは多岐にわたる項目でございますので、今後どういう、現状を変えていかれるのか、それとも今のままがベストということで継続されていかれるのか、その辺を伺いたいと思います。

それから、次に、デマンドバスの運行につきまして、これも先ほど三好議員のほうから出ておりましたけども、これまで幾多の自治体が導入してきたデマンド型乗り合いタクシーは、交通弱者の幅広い市場ニーズに対応した運行計画を立てており、その運行経費を利用料金で賄うことは困難となっております。また、地理的条件や人口密度等によって効率化が難しい交通地域も存在しております。赤字部分を自治体が補填するとしても、可能な限り効率的で経費節減につながる運行システムを構築すべきと考えますが、町長の見解をお伺いいたします。

防災拠点につきまして、先ほど庁舎の関係はるる説明がございましたので、過去のいろんな検討材料を踏まえて、大変必要な問題でございますので、また、庁舎特別委員会等もございまして、こちらでまた深く詰めていただければありがたいかなというふうに思っております。

それから、企業の支援、特産品のブランド化についてお伺いいたします。特産品のブランド化というと、何かしら窮屈な感じをいたしますが、地域加工特産物の視点で考えてみますと、その商品に物語があるように開発することが一番の近道でないのかなという感じを昨今抱いております。例えば道の駅や新幹線の駅売店などで御当地カレーが販売されてるところもあるようでございます。また、それが売り上げが伸びているということも聞きます。御当地カレーの価格は500円程度が一般的だと思われませんが、500円で販売できれば、製造者も利益を上げることができると思います。今まで、例えばスーパーでは大手企業が200円程度で販売するカレーという商品が、地元の道の駅で500円でも売れるということが現実にあるようでございます。それは、味もさることながら、御当地カレーには魅力的な商品の物語があるからこそ、消費者はその物語に対してお金を出しているのではないだろうかというふうに推察できます。その地域でしかできないものをつくるのが、逆にお客様から見ると魅力的に感じられるのではないのでしょうか。特産品のブランド化は手短なもの、忘れられそうな加工品等にヒントが隠されているのではないかと推察されます。町長の思いをしっかりと受けとめて、新たな特産品のブランドを構築することを願っております。町長の見解をお伺いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 三輪議員から具体的な事業、何点かについての見解、お尋ねでござい

した。一つは、江尾診療所の公営企業化でございます。先日、自宅のみとり15%、県内一というのが出ておりました。誇らしいことかなと思います。なかなか県内一、とれません。これをここまで実現させた陰には、やはり江尾診療所、武地先生といますが、江尾診療所の取り組みというのが不可欠であったろうと思います。ですので、江府町にとって欠くことべからざる存在がこの診療所だと私は思っております。ですので、その診療所をこれからも存続させ、なおかつ、充実させるということは必要なものであるというふうに思っております。今回、公営企業化ということを出しましたが、打ち出したんですけど、具体的にどうするということまではまだ実は考えていません。ですので、全部適用がいいのか、一部適用がいいのかということも結論出しておりませんので、その点についてはちょっと差し控えさせていただきたいと思いますが、もともと狙いは3点ございます。公営企業化の狙いは3点ございます。

1点目は、職員の身分保証を確保、改善する。今は、何と申しますか、嘱託で雇った人とか役場で採用している人とか、いろいろな身分がまざっていますんで、そのあたりの職員の身分を改善する。

2点目が、医師、看護師、事務スタッフの安定的に確保できるようにする。これはやっぱり独立してそういう存在になれば、結構、人材募集も自由に臨機応変にできますし、あと、実際、応募される方も安心して応募できるんじゃないかなということもありまして、2点目がそういうことです。

3点目です。これはやっぱり経営なんですけれども、機動的に柔軟に対応できると。一々役場のお伺い立てなくても、ある程度全体的に保証さえされていけば自由にサービスが行われるということですので、その辺で公営企業化を狙っているということでございます。

現在、メリット、デメリット含めて福祉保健課の中で検討しておりますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

次に、保健・医療・福祉の充実のことでもございました。これについては、現状を変えるのか、継続なのかというお尋ねでしたけれども、基本的には現状でよくやってると思いますので、現状路線でいきたいと思いますが、私はそれに加えて、やっぱり健康寿命、これを何とか延ばすことができないか、今もこちら取り組みされてると思うんですけど、そのあたりを一つ柱にして、表に出せないかなというふうに思っています。今は何かちょっと埋もれてしまってるんですけど、はっきりしたものを、数値化とか出して、江府町はここで頑張ってるというようなことを打ち出してみたいなというふうに思います。

デマンドバスでございます。三好議員のときにかなりお答えいたしております。最終的にはや

っぱり数字をもってお答えしないとだめだと思いますので、しばらくやはり検討の時間をいただきたいというふうに思います。

防災拠点としての庁舎整備については、また特別委員会のほうでじっくり議論するというところでございましたので、割愛させていただきます。

起業の支援とか特産品のブランド化でございます。物語を持ってやはり売っていくことが大事じゃないかというお話でございました。これについては、私も非常に同感でございます。といいますのは、十七夜の物語をつくったとき、「天の蜃」つくったときに、実はあの中にいろんな食べる、食べ物のシーンが、食事のシーンが入っています、実は。これはいずれ、何といいますか、そのシーンを想定して食事をつくったりとかすることも考えての、物語の中にあえて書いてもらってるというようなこともあります。ですので、そんなこともありますし、あと、例えば御机ありますよね、御机地区なんかは後醍醐天皇のゆかりで、地名のゆかりがそういうもてなしたと、机を合わせてもてなしたと、そのだんごがまた、お米ですかね、使ってつくっただんごだったという物語がやっぱりあります。そういった物語、地域独特の物語を使って売っていくということはやっぱり真剣に考えていく必要があると思います。具体的にこれからどんなふうな体制でやっていくとか、あるいは助成制度があるかっていうことについて、奥大山まちづくり推進課長からお答えさせますので、よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 奥大山まちづくり推進課長。そこでいい。

課長。

○奥大山まちづくり推進課長（加藤 邦樹君） 奥大山まちづくり推進課、加藤でございます。私のほうから2点、起業の支援についてと特産品のブランド化についてということでお答えしようと思います。

起業の支援につきましては、町内で異業種参入、新製品の開発または事業の経営改善をしようとする事業者を支援し、地域産業の活性化を図ることを目的として、現在、江府町チャレンジ起業支援事業という事業で補助金を交付しております。対象経費の2分の1以内、補助金額限度額が50万円でございます。100万円の事業ができるということでございます。ぜひこちらのほうを利用させていただきたいというふうに考えております。平成27年度が1件、現在、今年度が8月31日現在、1件ございます。まだ募集しておりますし、どんどん出てくる予定でございます。こちらのほうにつきましては、必ず審査をして補助金交付ということでございますので、募集を現在もしております。

続きまして、特産品のブランド化でございますが、奥大山江府町の自然に育まれた特産品をブ

ランド化することにより、より一層の特産品のレベル向上と町外の広報に努め、江府町の観光の基盤を築くことを目的として、町内の事業者を中心に奥大山ブランディング協議会、これは仮称でございますが、今年度に設立しようという動きを現在しております。町内の特産品のブランド化を図ろうとしておりますが、具体的な内容はまだこれからでございますので、皆さんのお知恵をまたいただくようになるというふうに思います。先ほど言われました特産品のストーリーを十分に考えた上でブランド化を進めていきたいと思っておりますので、また御協力をお願いしたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば。

三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） ありがとうございます。担当課長のほうから御答弁いただきまして、ありがとうございました。

先ほどの中で、公営企業化の問題で、実は偶然だったんですけど、30日に米子水道局にちょっと訪問する機会がありまして、担当の松浪課長さんにちょっと施設を案内してもらいながら、ちょっとどういうもんかということも含めて、今、米子市水道局は、米子市、境港、日吉津、ここに給水をしておりますので、大変なウエートがあるんですけども、ここは全く米子から離れまして、言われました料金収入、随分下がると。それから職員も全部主体性を持った体制づくりをやってるといったことで、そこまでいいですが、いろいろ話聞いておりますと、例えば近年、地方公営企業の置かれた環境は、少子高齢化社会の到来、環境問題の顕在化、高度情報化の進展、経済の低成長、住民ニーズの多様化、町村合併を初めとした広域化などにより目まぐるしく変化しています。地方分権の進展により、地方公営企業においては今、自己決定、自己責任のもとで自主的に、自立的な事業運営を推進していくことが求められております。特に、右肩上がりの経済成長が終えんを迎え、給水収益の減少に伴う厳しい財政状況下では、財政の健全化に取り組むとともに、限られた財源を最大限活用して、市民サービスの向上に取り組まなくてはならないと言われております。なるほどなというふうに思いました。それで、現実、御存じの方あるかと思いますが、山陰道のところに新しく貯水槽、大きなのができております。それから、料金、恐らくここ何年かのうちに上げたいと思っておりますけども、なかなかこれも難しいようなことを聞きましたんで、当然、今、先ほど町長さん言われました、うちには特別会計というのはありますけども、この辺が一般財源と別とは言いながらも、なかなか先が難しいということがあるのかなというふうに感じております。

それから、デマンドバスの関係でございますが、これもちょっと提案っていいですか、先ほど

三好議員のほうからもございましたですけども、例えば民活型のデマンド型乗り合いタクシーと  
いうのをちょっと考えてみたんですが、民活型のデマンド型乗り合いタクシーの基本的な仕組み  
は、タクシーの相乗りの活用であります。通常のタクシーの稼働率が低下する日中などの時間に  
限り、乗車地点が近い3人から4人の交通弱者を次々と同乗させて、同乗者が割り勘で支払いで  
きる相乗りをタクシー会社が中心となつてするものであります。交通弱者にとっては料金的メリ  
ットが生まれ、タクシー会社にとっては稼働率アップにつながることであります。この  
辺についても、若干のやはりデメリットの面もあろうかと思ひますけども、一つの切り口かなと  
いうふうに思ひます。よろしくお願ひします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 2点ございまして、公営企業の関係で水道局の例示を出されましたけど  
も、調べてきていただいて、また教えていただくと助かります。よろしくお願ひいたします。

もう1点、デマンドバスの関係で、乗り合いタクシーの話がありました。確かにそういう視点  
も必要だと思ひます。ただ、先日、その事業者さんとお話ししたときに、やはり町民さんの意識、  
何か乗りたくない人もいるっていう話があつて、その辺のところを何とかしないと、確かにいい  
提案なんですけど、町民さんの意識を変えないといけない部分もあるなというふうに、この前、  
事業者さんとお話ししながら感じましたので、さらにまた議論するときに詰めていきたいと思  
ひます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（3番 三輪 英男君） 結構です。

○議長（川上 富夫君） それでは、次の質問行ってください。江府町農業公社に即効性のある決  
断をと。

三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 続きまして、農業公社、もう何年になるでしょうか、一般質問で  
も再々質問させていただきたいと思ひます。大変難しい問題が存在することは私自身も感じては  
おります。しかし、新しく白石町長になられたということですので、ぜひともこ入れといいま  
すか、抜本的な改善策を御検討をいただきたいという意味で質問させていただきます。長年、そ  
の存在意義が問われている、ちょっと大げさでしょうかね、一般財団法人の江府町農業公社の抜  
本的かつ即効性のある決断をどのような切り口で対応されるのか、お伺ひします。

過去、再三にわたり一般会計から資金支援を受けておりながら、その成果は著しく上昇する気

配が見られてこず、農業関係者のみならず、町民からの不満の声が聞こえてまいっております。白石新体制下において本気の改善策を提示し、一般財団法人江府町農業公社の役員及び関係機関が一丸となって打開策を構築して、財政支出の健全に努めていただきたいと思います。町長の御見解をお伺いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 江府町農業公社に即効性ある決断をとということで御質問をいただきました。抜本的な対策ということで、私も副町長のときから何回もこの議場でもお話を伺っております。抜本的なということです。町長も新任になりましたので、ここで改めて奥大山農業公社の設立経緯について考えてみたいと思います。議員の皆さん、もう既に熟知されているとは思いますが、その存在意義というものを抜本的に考えるためにはやっぱりいま一度振り返ってみる必要があるのではなからうかなというふうに思います。

従来の農協さんが行っていた農作業の受託というものを、農協の合併に伴って、平成15年度に江府町農業公社が設立されて行うようになったと聞いております。その後、公益法人制度改革に伴う関連3法というものが成立いたしまして、そういう公社を解散するか、あるいは一般財団法人として存続するかを選択することになり、平成25年度に一般財団法人奥大山農業公社ということで設立されたものというふうに聞いております。

定款を見ますと、次のような事業を行うということになっております。農作業の受託に関する事業、農業経営に関する事業、地域特産品となる農林産物の開発並びに普及及び販売に関する事業などがございます。ほかにもあります。現在、水稻の秋作業では、作業部会の3名の皆さんにお願いして、お世話になりながら、昨年秋で水稻の作付309ヘクタールのうち約68ヘクタール、2割程度の刈り取りを公社で行っております。また、江府町の水稲を耕作されている、723名おられるんですけれども、そのうち154名の方にことしの水稻の秋作業の申し込みをいただいております。これも大体2割でございます。

江府町の中心産業はやはり農業でございます。ただ、その実情は、多くの小規模農家の方で構成されています。集落営農の推進でありますとか担い手の育成などを図りながら、江府町の農地あるいは美しい自然環境を守っていかなければいけないというふうには強く感じているところでございますけれども、そういった小さな、小規模な農家の方を支えていくということが奥大山農業公社の意義ではなからうかなと私は思っています。実際に選挙のときも歩いていきますと、公社があってよかったと、公社がないとできんわという話もよく聞きました。ですので、それは

すごい実感として持っております。そういった奥大山農業公社の存在意義というものを考慮して、実施する事業を手広く手広く、さっきも定款ありましたけども、手広く手広くやるのではなくて、実施する事業を取捨選択しながら、絞り込みながら、健全経営に向けて努力する必要があるとは考えています。ただ、現在、新しい作物、新甘泉などの栽培にも着手しております。その成果もまだ見えません。これからです。そういったものを見ながら、今後の展開というのはやっぱり考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

きのうですけど、監査委員さんのほうから指摘がございまして、専従リーダーが不在であるということがございました。そういった農業公社の体制も含めて、さらに議員の皆さんからも御意見を伺って、議論を深めた上で抜本的などうか、決断を下したいと思っておりますので、御理解を賜りたいと思います。

なお、現在まで取り組まれた奥大山農業公社の経営改善の取り組みというのはございます。そこについては農林産業課長から答えさせますので、よろしくお願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 農林産業課長、下垣君。

○農林産業課長（下垣 吉正君） 失礼します。経営の改善の取り組みと成果についてでございます。

まず、以前から会計監査のほうから御指摘がありました固定費につきましては、当初、農業公社の職員6名というような体制でありまして、一昨年から協力隊2名のほう、協力で作業をさせていただいて、今現在、職員3名と協力隊2名ということで、職員数の削減を行って、経費のほう削減させていただいているところでございます。

また、昨年の冬期間は、今までも職員のほうがスキー場のほうに上がっておりましたが、ちょうど嘱託職員の採用ということで、経費の削減をさせていただいたところでございます。

また、大変心配いただいております会計処理のほうでございますが、昨年、税理士さんのほうと委託契約のほう結びまして、会計ソフトを導入して、平成27年度からは3年目になりましたので、消費税の課税業者として適正な会計処理を進めさせていただいて、納税のほうもきちっとさせていただいたところでございます。

また、農業機械のほうの購入でございますが、県、町のほうの協力によりまして、がんばる地域プランのほうによりまして、平成26年度末にトラクター、平成28年度には春に田植え機械、秋に水稻のコンバインのほうを購入して、機械の借り上げ料、リース料等の削減を行っているところでございます。

また、農業経営のほうでございますが、採算性の余りよくない水稻栽培のほうでございますが、

当初は5.7ヘクのほうを経営しておりましたが、今現在は2ヘクということで、経費を削減させていただいておるところでございます。

また、農作業の受託のほうでございますが、昨年、水稻の秋作業のほうの受託のほうを値上げのほうをさせていただきました。しかし、収支としては当初より赤字削減をしておりますが、しかしながら、まだ黒字の展開では難しいような状況でございます。いずれにしましても、農業収入は気候等変動、いろんな状況で変化してまいりまして、また、新しい事業の導入方法も大切でございますが、なかなか今、難しいところでございます。今後、経営の柱になる、収益性の高い事業等の導入を早急に検討して、また皆様のほうの御意見等をいただいて頑張っていきたいと思っておりますので、また御指導のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） 大変ありがとうございました。先に白石町長のほうから言われました昨日の代表監査委員の意見、全くそのとおりだと思います。そろそろ再々度にわたる意見具申を言わないけんというようなこと、それと、いわゆる中心的な問題の確保といいますか、そういったこともやっぱり経営改善につながると思ひます。ぜひこの機会に、なかなか難しい面もあろうかと思ひます。難しくなければとうに解決する話なんで、ここまで延びるってことは難しい状況もあろうかと思ひますけども、ぜひとも関係各位の御努力も踏まえて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

実は、前竹内町長が在任中にアグリチャレンジ研修ということがございます。これは、先般、31日の西部地区の町村会議長会の研修会の折に、県の農林水産部長が御講演になったときも出ておりましたんですけども、これは農大のほうの関係で、そのときにはするしないは別にして、前向きにと答弁していただいておりますので、その後の経緯がどうなってるかなという。それだけに派遣するだけの設備体制が整ってないのか、それは先ほどの話で人数的なこともございますので、あろうかと思ひますけれども、ただ、やはりいろんな角度でこの研修をすることによって、自信もつくでしょうし、また、プラスアルファの面は回ってくると思ひますので、可能である限り御検討していただければありがたいと思ひます。以上です。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

もし答弁がありましたら。よろしいですか。

じゃあ、白石町長。

○町長（白石 祐治君） そのアグリチャレンジ研修というのは、公社の職員が研修に臨むという

ことだと思います。レベルアップを図ることは大切なことだと思いますので、体制のこともあります。ですので、そのあたりを踏まえて、可能であればチャレンジしていただきたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（3番 三輪 英男君） 結構です。

○議長（川上 富夫君） では、次の質問を行ってください。

三輪議員、移動期日前投票所の導入について。

○議員（3番 三輪 英男君） そうしますと、最後の質問でございます。移動期日前投票所の導入についてでございます。皆さん、新聞紙上に出ておりましたから御存じかと思いますが、島根県の浜田市が7月1日、全国初の山間部を巡回するワゴン車で参議院議員選挙の期日前投票を実施されました。交通手段の乏しい高齢者の投票機会を確保しようと、市、選挙管理委員会がワゴン車による移動期日前投票所を導入。総務省によりますと、全国初の取り組みと言われます。浜田市では、廃止された投票所11カ所を3日間でめぐり、1カ所当たり1時間から1時間半、立会人2人、選管スタッフと一緒に移動され、該当地域の有権者は153人、これは3月現在の人数であり、好評であったと言われております。

この案件に関しましては、個人的には以前から江府町にもそういうものがあればいいなという思いでございました。一般質問での機会が、提案が先を越されたようなものでございますけれども、江府町においても導入の可能性があるのかないのか、町長の御見解を伺いたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 移動期日前投票所の導入について御質問でございます。選挙の執行につきましては、江府町でいえば、町の選挙管理委員会が決められることでございます。ですので、権限のない私がここでは判断できないということでございますが、個人的な見解といたしましては、投票しやすい環境を整えるということは大切なことであるというふうに認識しています。ただ、実施する場合には絶対ミスがあってはなりませんし、十分な体制をとる必要があるとは思っています。

せっかく紹介いただきましたので、浜田市の事例についても、恐らくいいことばかりじゃなくて、問題点もあろうかと思います。そのあたりにつきまして、総務課長のほうから紹介させていただきます。

○議長（川上 富夫君） それでは、答弁を求めます。

総務課長。

○総括課長（瀬島 明正君） 失礼いたします。浜田市の事例ということで、私どものほうでちょっと調べてみた範囲でございますけども、御説明させていただければと思います。先ほどの三輪議員のお話の中にも結構詳しくございましたんで、多少重複するところがあるかもわかりませんが、お聞き取りいただければと思います。よろしく願いいたします。

まず、浜田市でございますけども、平成17年に1市3町1村ですね、この5つの市町村が合併しておられます。本年7月末の人口で5万5,591人でございます。今回実施されました参議院選挙の選挙人名簿登録者数、これが4万8,000人ということでございました。平成17年の合併のときには、合併時の5つの市町村の投票所、これが105カ所あったそうでございます。ただ、これを統廃合を繰り返しまして、平成22年時点で78カ所まで削っておられます。今回の参議院選挙に当たりまして、さらに8カ所削って、70カ所ということにされております。今回、統合されました8カ所でございますけども、先ほどございましたように、中山間地域で、選挙人名簿の登録者数が10人とか20人とか、そういった少数の、極めて少ない地区であったそうです。そういったことで統合ということになったようでございますけども、この統合を機会に、それぞれ統合される各投票区のほうから投票機会の確保を何とかお願いできないだろうかということがありまして、その対応ということで移動式の期日前投票所、これを採用されたそうでございます。

先ほどの三輪議員さんのお話にもございましたように、今回実施されましたのが期日前投票所の期間中の7月1日から7月3日までの3日間で、統合された投票区が8つ、8投票区ございましたけども、結構離れてる場所もあったそうでして、設置した投票所はその旧8投票区のうちの11カ所を3日間かけて巡回されたそうです。投票所の設置時間は、早いところでは午前9時半から開始しまして、閉鎖時間は遅いところでも午後5時半には終わるように設定されて、1カ所当たりは60分から90分ということで回られたようでございます。

投票に来られた方、まず、投票の受け付け、申請書とか選挙人名簿等の照合とかというものをやるわけですが、これはそれぞれ各地区の集会所をお借りしておられて、その集会所で行います。受け付けが終わられた方は、10人乗りのワゴン車、これを投票所用に改装されたそうです。大体20万ぐらいかかったそうでございますけども、そのワゴン車の中に投票箱と記載台が設置されておりまして、そのワゴン車の中で投票用紙の交付を受けられ、投票用紙に記載され、記載した投票用紙を投票箱に入れられるという作業を投票人の方はされるということのようです。ですので、ワゴン車はできるだけ集会所の出入り口に近いところでないと長い距離歩いたりすることになりますので、近い場所に駐車し、それから、この投票される状況、選挙の方が投票さ

れる状況を投票管理者の方1名、それから投票立会人の方2名以上、最低限で2名採用されたそうですけども、この最低3名の方に立会していただかなくてはなりませんので、この3人の方は常にワゴン車の一番後ろの列に座られて、ずっとそれを常時座って監視していただくことになるということでございます。ですので、こういう部分、車の中という非常に狭い空間の中で投票っていう、間違いがあってはならない行為を確保しなければなりません。それから、また、高齢者の方が多いので、車の乗りおりなどの介助も必要になってまいります。ですので、選挙管理委員会のほうでは事務従事者、通常、私どもですと、固定されてるところでは2名とか、多くても3名とか、そういった格好なんですけども、車の関係があるので4人つけられて回られたということとでございました。実施された結果でございますけども、153人中の68人の方が利用されたということで、利用された方には好評だったということでございます。

課題ということでございます。まず、選挙人名簿の照合ということとでございました。結局、車で回りますけども、一方では、期日前投票が何か所かでやっておられます。ですので、二重投票は絶対防がなければなりませんので、ただ、選挙人名簿を持ってくるということにならなかったようで、車と携帯電話で選管の本部とやりとりをされて、名簿の照合とかをやられたようでございます。ただ、携帯電話ですんで、今回、別にトラブルとかなかったようでございますけども、通信状態が悪くなったりとか、そういった確認がスムーズにできなくなってしまういろいろな気をつけられたようでございます。事前に行ってみて、ちゃんと通信が確保できるかどうか、そういった苦勞もされたようでございました。それから、投票に来られた方の待合場所の設置とか、それから投票管理者、立会人の方、これ、一般の方に出ていただくわけでございますけども、そういった方の休憩場所の確保といった投票環境の改善も課題に上げておられました。それから、今回、たまたま天候には恵まれたそうでございます。ただ、悪天候の場合とか冬期間の積雪時などに確実に投票場所を確保する方法を、そういったときにはまた検討していかなければならないというふうなことはあったようでございます。

以上、浜田市の状況ということで御説明させていただきました。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、三輪議員。

○議員（3番 三輪 英男君） ありがとうございます。

先ほど町長からありましたように、この件については選管が専権事項ですからということはありませんけど、大変、今、総務課長に説明していただきまして、ただ、私が言いたいのは、今やってる制度、江府町もいろんな投票所が設けてありますけど高齢者は、朝一番のバスで行って

も、帰るのに1時間以上待たにゃ帰れないんですよ。この実態があるからこそ私は言ってることであって、その辺をどうするのかということの議論もなけりゃ、選管だけだなしに、そういう全体の中で議論をする場があってもいいのかなという意味で提案してますんで、よろしく願います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 御質問の意味がよくわかりました。ですので、選挙ということにとられるのではなく、住民の方のサービスという点、選挙管理委員会ともお話ししないといけないと思いますけども、どこまでできるのかという話を選挙管理委員会としてみたいと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

○議員（3番 三輪 英男君） 以上でございます。

○議長（川上 富夫君） これで三輪英男議員の一般質問は終了いたします。

○議長（川上 富夫君） 午前中の議事は以上で終了し、休憩したいと思います。午後の再開は1時20分をお願いしたいと思います。1時間半をお願いします。

では、以上で休憩します。ありがとうございました。

午前11時48分休憩

午後 1時17分再開

○議長（川上 富夫君） 御苦労さまです。

それでは、再開いたします。

続いて、質問者、長岡邦一議員の質問を許可します。

7番、長岡邦一議員、本町の水田農業についてでございます。

○議員（7番 長岡 邦一君） 議長のお許しをいただきましたので、通告をしております本町の水田農業についてお伺いいたします。

それに先立ちまして、先日の田中先輩議員さんの急逝に対し、昨日は川端議員さんの懇切丁寧なお別れの言葉がございました。私も少しだけ思いを言わせていただきたいと思います。田中議員さんは本当に一般質問に命をかけておられたお一人でもありました。質問後のどや顔が見られなくなったことは本当に寂しく思います。先月、町長さんの歓迎会のとき、余り他人を褒めら

れない方でしたが、白石町長さんを、あの人は頭がいい、本もしっかり読んでとお褒めでございました。ですから、今後の白石町政を見守っていただけることと思います。御冥福をお祈りいたしますとともに、みんな、元気で江府町の発展のために頑張らねばという思いです。

ちょっと長くなりましたが、10何年ぶりに一般質問するもので、緊張しております。そして、この質問台は初めての経験でございまして、どうなりますか、ちょっと心配ではございますが、遅くはなりましたが、白石町長さん、御当選おめでとうでございます。しかしながら、無投票ということで、具体的な政策など、町民に訴えることが少なかったのではないかと思います。町長さんも選挙前には全戸を回られて、いろんな御意見を聞かれて、それを政策にしたいということでございましたが、私のほうからちょっと農業について、とりわけ本町の水田農業の現状についてどのように考えておられるのか、そして、あるとしたら、課題はどのようなことと考えておられるのかお伺いします。

私は、農業、田んぼが立ち行かなくなれば、即集落の崩壊につながると考えております。どうやって持続的に集落を守り、田畑を守っていくのかということについて考えておるんですけども、なかなかいい名案ができません。

それと、昭和44年から45年間にわたって続いてきた生産調整の配分を国は2年後にはなくすと言っております。もちろん1反7,500円の価格政策もなくなると聞いておりますが、本町の農業を持続的に可能にするにはどうするのか、将来的な展望をお聞かせいただきたいと思えます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 長岡議員の御質問に対してお答えいたします。実は長岡議員の質問が、通告いただいたときに、余りにも真っ正面からの質問だったもので、物すごく答えにくいなと思ったのが実感でございます。その中で、先ほど田中議員が本を読んでいるという話がありましたけど、これ、「農業問題」という本も実は半年ぐらい前からちょっと読み始めておりまして、この中で、先ほど申されました国の政策、これがやっぱりかなり行き詰まってきた、かなり日本の農政をゆがめて、こんなことを言っているかどうかちょっとわからないんですけど、日本の農政を今の状態にしたのはやっぱり国の政策なのかなというふうに私は感じております。その中で、本町の農業についての水田農業についての現状と課題、それとあわせて本町の農業の将来展望について、これ、あわせて答えさせていただいてよろしいでしょうか。（発言する者あり）じゃあ、あわせて答えさせていただきます。

まずは、水田農業の現状と課題からです。議員はもう既に御承知と思いますが、本町の平成28年度の水田面積は474ヘクタール、水稻の作付面積は297ヘクタール、耕作者は723名で、平成27年度のJA鳥取西部における江府町の農産物の売り上げは2億7,986万円で、うち水稻は1億6,357万3,000円。何と58%を米が占めております。江府町の場合、これも御承知でしょうけれども、食味の非常にいい米が生産されまして、豊かな自然を背景とした農業、これが営まれております。米価の下落によりまして農業経営は厳しくなっておりますが、また、高齢化が進んで農地の保全も困難になっております。これも、本当に町内回らせていただいて、痛切に感じたところでございます。これが大きな問題であるというふうに思っています。50アール以上、5反以上ですね、利用権設定しておられる農家さんに集まっていただいて、意見交換会が前の竹内町長のときになされております。そのときに、まさに先ほど長岡議員がおっしゃった、米をやめれば集落もなくなるといったような声が出ております。これが本当の実感なのかなというふうに感じております。ですので、集落を維持するためにも、それから江府町がずっと続いていくためにも、水田農業が継続できると、そういう努力をすることが必須だというふうに考えております。

そこで、本町農業の将来展望という話に移りますけれども、本町の農業を振り返ってみますと、白ネギとかトマト、そういった特産品の生産も確かに行ってはいますが、やはり主力は米です。平成25年度から奥大山江府町農業活性化プランを定めまして、米のブランド化に取り組んでおります。お米のおいしさを数値、数字であらわした食味値とか味度値といったようなものを使いまして、一定の基準でもって、いい食味の値を出した米の中でもさらに品質の高い食味値、味度値90以上のお米の生産を目指しているところでございます。面積も現在8.3ヘクタールほどなんですけれども、将来はこれを60ヘクタール目指してございまして、全国コンクール、毎年開かれます、ここの総合部門の金賞、これ、大体4,000袋ぐらいの中の30袋ぐらいだと思ったんですけども、かなり厳しい基準っていいですか、選抜になると思います。その総合部門の金賞というのを目指して、さらなるブランド化に取り組んでいるところでございます。いつかこういうときが来ることを信じております。

さらに、本町は環境王国にも認定されております。非常に環境のいいところだということで、これは本町のやっぱり最大の特徴でもあると思います。そういった自然環境のよさをやっぱり前面に出して、手つかずの自然から生まれる、やはりおいしい水、その水の恵みを受けたおいしいお米、そして農産物、そういったことを強力に全国に対して情報発信をしていきたいなというふうに思います。

きょう、日本海新聞に出てましたけれども、日野町さんが海草でつくった肥料を使ったコシヒカリについて高島屋さんと提携して、10月中旬から販売されると。それをさらにギフトとかオンラインでも販売して、全国展開するというようなお話も出ておりました。これに負けないような取り組みを江府町でもやっていけたらいいなというふうに考えております。

さらに、集落の話もございまして、集落営農につきましては、ことしの春に杉谷集落で、それこそ法人、宮市さんに続いて、何と20年ぶりに農業生産法人が組織されたところでございます。そのほかにも5地区で任意組織による集落営農が行われています。また、吉原地区におきましては、組織化への話し合いもなされているということを知っております。今後、組織のない集落に対しましても情報提供を行っていきまして、地域の実情に合った取り組みを進めてまいりたいと考えております。集落の取り組みしていただきまして、集落の維持を図っていききたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可いたします。

7番、長岡議員。

○議員（7番 長岡 邦一君） 確かに厄介な問題といえますか、なんですけれども、今、江府町は恐らく町長さんも農業立町だというふうに考えられてるんじゃないかというふうに考えます。ただ、農業立町と言っても、今やってる中で、先ほど御答弁がありましたように、江府町は水稲、これでやっていくしかないんじゃないかなというふうには考えています。今、公社さんのほうで新甘泉という栽培に取り組んでおられて、非常に期待はしているんですけども、じゃあ、どのぐらいの面積で、何人が携わっておられるのか、それを江府町全体に普及していけるものなのかどうか。本当に昔から、私の知ってる限り、果樹というものが非常に育たない町でありまして、先達たちは一生懸命やっておられたかもしれないですけど、土質が違うのか、とにかく水稲をつくってきましたし、これからも恐らく水稲でやっていく道が一番じゃないかなと思います。

その中で、先ほど町長さんありましたように、けさ、新聞見て、やられたと思ったのが先ほどの海草米でございます。洲河崎のほうまで来られて、1日60キロの水を見て回るという松本社長なんですけども、いかんせん、うちのほうが先にプレミアムコシヒカリをやってきたわけがあります。そのことについて、けさほど電話させていただいたんですけども、どういうルートでこういう販売に乗せられたのかというのを聞いたんですけども、やっぱり人のつてということでした。それで、いや、待てよと、うちには本当に竹内町長さんらが一生懸命になられて企業誘致された企業もございまして。当然、町外からも従業員さん、それから、ましてやサントリーという、大サントリーがあるものですから、そのあたりへのプレミアム米販売というものを町長さんのほ

うから、もしくは職員さんのルートとかを使いながら頑張っつなげていっていただきたいなという願望があります。それについてはどのような考え、今、言いましたけども、どうするかっていうのは答えられないかもしれませんが、やったろうかというふうに思われるのか、なかなか難しいというふうに思われるのか、ちょっとその1点。要するに、つくるのはプロであっても、なかなか本当に米っていうのはもう売れないんです。なかなか売ることが難しく、思いますので、何とかそのあたりで頑張っただけならばというふうに思いますので、それに対してのお答えをいただきたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 要は米をつくった後、どうやって付加価値をつけて売っていくかというお話だと思います。今、長岡議員おっしゃったように、電話で聞かれて、日野町は高島屋とのつながりを人のつてでやったというふうにおっしゃいました。確かにそのとおりだと思います。実は私も挨拶回りで日本海新聞社に行ったときに、その寺谷さんが、今度の米子高島屋の社長はおもしろい人だと、一回、宣伝に行ってみと言われました。それはたまたま十七夜のことを売り込みに行けという話だったんですけれども、それを聞いてたもんですから、きょうの新聞を見て、私も日野町は先を越したなというふうに思っておりました。ですので、そういう人のつてっていうのを大切にして、どんどん売り込みっていうのはかけていきたいとは思っています。

お話のサントリーさんの件なんですけれども、本当にこれは江府町にとりまして大きな武器だと思います。これは日野町にもごさいません。江府町だけが使わせていただける切り札だと思っております。

実は私、4月に東京に出かけておりまして、そのときに新宿の駅のすぐ近くにサントリーさんの系列の飲食店がございました。ちょっと高級居酒屋みたいな感じでありました。そこで、御飯というメニューがあります。単なる御飯。注文すると、御飯、そこで炊いてくれて、釜っていうか、石の何か釜みたいなのが出てきて、3人前ぐらいで、2合で1,000円みたいな。漬物頼むと、これがまた400円とか取られていて、物すごく値段が高い米なんです。この米を見ると、仁多米でございませう。一緒に行った人と話してましたら、味を比べたら仁多米なんか負かせんわいなと、江府町の米はってな話をしておりました。要はどうやってそういうところに入り込んでいくかという話だと思います。たまたまそれがサントリーさんのお店だったもんですから、だったら、うまくサントリーさんのつてを使って置かせてもらったらどうかなというふうに考えました。

実はあれから後、就任した後に、垣見社長にも会うことが、挨拶で来られましたんで、ちょっとそのお話をしてみました。そうすると、実は似たようなこと、江府町じゃないんですけども、佐賀県のほうで同じようにお茶つくっているサントリーの工場があって、そこも佐賀県のJAさんとかとうまく協力関係を持って、何かお店で、ちょっと品名は忘れちゃったけれども、何か野菜の関係を出してもらってるっていうような話をちょっと聞きました。ですので、まんざら可能性がないことはないのかなというふうにそのとき思いましたので、今後、この辺の話も詰めていって、要は基準をどのぐらいに持っていくかという話もあると思います。あと量、この辺の話もあると思います。そのあたりをうまく詰めて、江府町産のお米をうまく売り込みたいと。これはやっぱりサントリーさんが製造されているミネラルウォーターのあるところで作った米だというように売り出し方を何とかセットでやれば、お互いに利益があるのかなというふうに考えますので、ぜひそういうようなこともやってみたいと思います。すごい単純ですけど、以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

7番、長岡議員。

○議員（7番 長岡 邦一君） ありがとうございます。非常にそのことについては期待をさせていただきたいと思います。私もプレミアム米の生産者の一人でございますので、よろしく願います。

それと、先ほどの将来展望についてですけども、それこそ3,000人の楽しいまちづくりの中で、来られる環境をつくるとかっていうのがあるんですけども、集落営農組織とか、それから今現在の農業公社っていうのは守りのための施策なんです。守りは得手じゃない、攻めのほうが得手だという、先ほどのお答えもあったように、攻めの農業をどういうぐあいにするのかということ。守りでだったら人は来ません、恐らく。担い手も出ません。要するに付加価値をつけた高いお米で、米で食べれるんだというんだったら、担い手も後継者も外からでも入ってきてでもやろうという気持ちになると思うんですね。ですから、そのあたりのことをしたいんですけども、私らも攻めの農業がわからないもんでして、そういった付加価値のついた水稻しかないなということで一生懸命頑張ってやってたんですけども、一つには、先ほど言いましたように、新甘泉には期待をしております。それから、プレミアム米にも非常に期待をしております。

それと、生活できる農業っていうのは、先ほどおっしゃりましたように、白ネギやトマト、園芸物ではできないです。それは集落営農とかやってたら、恐らく展開はできないと思います、もう守るのでいっぱいですから。それと、何というんですか、例えばハウスを建てるのに、言った

らおかしいですけど、かなりの初期投資が要るんですけど、そのあたりも例えばリース的に年間の収入で払っていけて、10年後には自分のものになるとか、そういった政策をぜひとも考えて、若い人に乗り込んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 若い人を呼び込むための魅力ある農業づくりだと思います。実際に今も新甘泉の話も出ましたし、プレミアム米で付加価値上げてやっていくという話も出ました。それ以外にも、野菜についても取り組んでいくという話も出まして、やっぱり総合的にやっていくのは必要だとは思いますが。その中で、ハウスの話もちょっと出たんですけども、実際にやるのは最後は人だと思います。幾らこちらのほうで想定して制度を設計しても、使っていただけるかどうかという話もありますので、そのあたりはやっぱり、何ていいますか、その辺の声を聞きながら、こういう設計、こういう組み合わせでいくと若い人がやる気になって、入ってこれる、あるいはそれをサポートできるような仕組みもつくりながら、全体的に受け入れられる体制っていいですか、考えていかなければいけないと思いますので、いろんな組織はあるとは思いますが、また、いろいろ御意見を頂戴できればと思います。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

これで長岡邦一議員の一般質問は終了します。

○議長（川上 富夫君） 続きまして、質問者、竹茂幹根議員の質問を許可します。

2番、竹茂幹根議員、町長就任に際してということでございます。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 先ほど来、一般質問の中に、昨日は川端議員より田中議員の追悼の言葉を聞き、全く田中議員さんがいないということについては非常に心寂しいと思いました。また、町長さん、新町長への質問を皆さんがされました。

初めて私は原稿の下書きをしました。それは、3年前に、先ほど田中議員のほうから、新人議員は質問してる内容がわかりにくい、また、下書きもしないで質問に臨んできると。文章をよく推敲して、そうして質問に臨んでほしいということをおっしゃられたのをこの間から思い出して、下書きをしていました。1番の質問通告において新町長の就任の抱負はという形ですが、その中で一番私が思っておったのは、3,000人の目標設定における事柄だったんです。しかし、そのことについては今までの議員さんの質問において、私のこれから質問しようと思っていることよりかは若干考え方は違うなと思ひまして、わかりましたので、このことについてはちょっと割愛をさせ

ていただきたいと思います。議長さん、よろしく。

○議長（川上 富夫君） それでは、1番目の質問はやめて、2番目の質問からということでしょうか。

○議員（2番 竹茂 幹根君） はい。

○議長（川上 富夫君） そうでしたら、財政の確立と財政の健全化対策についてからということで進めてください。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 財政確立、財政健全化対策について質問をいたします。財政の確立、確立した財政を、一口で言えば、私は事業、事物を達成、調達する中で、財政上、全く心配のない状態にすること、また、そうあることが財政の確立であり、確立した財政と言えると思っております。そうして、財政の健全化、健全な財政とは、負債や債務のない、赤字のない、執行等の努力とか、そういう状態にすることが、また、そういうふうにあることが財政の健全化であり、健全な財政であると言えると私は認識するものでありますが、町長さんは、財政の確立、財政の健全化について定義するならば、どう定義をされるか、お聞かせいただきたいと思います。

また、この3年間、副町長として財政を見てこられたわけですが、江府町財政の現状、つまり財政確立、財政健全化についてどう認識、理解されているか、お伺いしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 竹茂議員の財政の確立と財政の健全化についての御質問でございました。

まず最初に、定義、財政健全化の定義とは何ぞやというお話でございまして、先に竹茂議員のほうからは、負債、債務のない、赤字のない状況にすることというふうにおっしゃいましたが、必ずしもそれとイコールではございません。というのは、将来にわたって、何ていいますか、大きな事業をやったりするときには起債をしたりというふうなことで、いわゆるそれは借金なので、そういったことをしながら年度間の支出を繰り延べてやっていく、ただ、それはあくまでも住民サービスとして必要なものをしていくということでございますので、その点が若干異なってるのかなと思いました。ただ、財政の確立や財政健全化の取り組みというのは、基本はやっぱり不要不急の事業は避けながら、無駄は排除すると、節約をすると、できる限りは節約をします。それが財政を確立して、健全化する原点であるというふうには考えております。

もう1点、この3年間、江府町財政を見てきて、副町長のときということなんですけれども、どう思うかということでございますが、これにつきましては若干説明的になりますので、させていただきますと、まず、先ほど言いましたけど、長年にわたって事業が負担を後年度に送って

くという起債、町債につきましては、平成16年当時、これは普通会計の起債残高が70億3,000万と特別会計の残高が31億8,000万で、合計102億1,000万ございました。これが平成27年度末の普通会計と特別会計を合わせた起債残高が71億5,000万ということになっておりまして、この間、約30億6,000万減ってきております。あと、実質公債比率というのもございます。これも平成19年度は21.8%、公債費の比率なんですけど、これは21.8%あったものが27年度現在では10.7%ということで、大幅に減少したというところでございます。なかなかこの借金、起債についても1年や2年ではそう簡単には減りませんが、確実に減ってきていまして、町の財政の健全化は進んでいると考えております。きのう、監査委員さんからの報告もあったと思いますけれども、監査委員さんからもそういった御報告を受けております。これもひとえにきょうお集まりの議員様の御理解と、あと町民の皆さんの御理解、そのもとに立ってなし遂げられたものだというふうに認識しております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

2番、竹茂議員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 今言われましたように、確かに債務、公債比率、そういうふうに70幾らになっていることは事実です。しかし、この江府町財政健全化に対する審査意見書を見ますと、そういう意見書の中で個別意見として、実質公債費について、若干なお10.7%になっておられるけれども、しかし、高い比率であることには変わりないと、県下の中でもそういう高い位置を占めると。したがって、なお起債発行額を最小限に抑える必要があると、こういう指摘もなされておられるわけでございます。また、将来負担比率について、これも350%ということは夕張の破綻、財政破綻の数値であろうと思うんですけれども、これが江府町において、27年度末になって、63.2%、こういうふうであると。しかしながら、起債発行額を最小限にするなど、将来負担の制限に努める必要があることも指摘されているわけです。ですから、やはり財政が健全であり、あるいは確立がなされていけば、当然、その年度において住民の福祉の増進にその金を充てることができる。だから、先ほど答えられたように、不要不急の支出をしない、これは私も一番であろうと思うんです。不要不急の支出をしない。また、無駄な投資っていいですか、無駄な事業はしないと。その辺は精査して、財政の確立あるいは健全化に努力する必要があるかと思うところでございます。（発言する者あり）今、一般質問で何をせえということのかということ、これはまた具体的にそういうふうな話をする中において意見をしていくわけであって、今は一般質問です。私が一般質問をしてる。後ろのほうからそういうふうな、私らが質問してるわけです。

○議長（川上 富夫君） 続けてください。

○議員（２番 竹茂 幹根君） 何度も質問言ってませんよ。そういうことが聞こえてくるんです。

○議長（川上 富夫君） ちょっと聞こえませんでした、私のほうには。

○議員（２番 竹茂 幹根君） そうですか。

○議長（川上 富夫君） 済みません。

どうぞ。

○議員（２番 竹茂 幹根君） 私の耳は悪いのに聞こえてますよ。

そういうふうに思うところでございます。

○議長（川上 富夫君） 答弁要りますか。

○議員（２番 竹茂 幹根君） いや、答弁はまた、今のように、必要であると思えば、してもらえば結構ですけれども、やはりそういうふうなことについて、意見の交換やそういうものについては別途にやっぱり相談していくと。柱を聞いたわけです。

○議長（川上 富夫君） 再質問に対して答弁がありましたら、白石町長、いいですか。一応聞いただけですが。

じゃあ、白石町長。

○町長（白石 祐治君） 若干説明が異なっているなと感じた部分がありました。恐らくこの江府町財政健全化のこの、さっきも読み上げられたと思うんですけど、最初に言われた、県内平均を上回ってるとは書いてありません。起債発行の協議団体となる指標の１８％というのがあるんですけど、それは下回っていると。とりあえず一定の基準は下回っているけれども、要は安易に起債をせずに発行額を最小限抑えなさいという言い方をしてありましたので、若干ちょっと発言された内容が……（「発言でなくて、私、読んだところ、そこを読まなかった」と呼ぶ者あり）

○議長（川上 富夫君） ちょっと黙ってください。

○町長（白石 祐治君） いや、ちょっとほかの団体より何か高いというような言い方をされたので、そこはちょっと訂正させていただきます。

それと、あと、おっしゃいましたように、不要不急の事業というのはなるべく節約すると、やめるというのは私もそのとおりでとは思っていますが、全てのものを切り捨てるというわけにはなりません。それはなぜかというと、住民さんのやっぱり思いとか意見とかもあります。今までやってきた経緯とかもあります。そういったことも踏まえて、やるべき事業はやはりやる。仮に、例えば庁舎にしてもお金かかります。けれども、住民さんの安全とか安心を考えた場合は、やはりどこかでそこに踏み切らなきゃいけないときが来ると思います。それを捉えられて、起債残高がふえるから一方的にだめだという話はないであろうということだけ申し上げておきます。以上

でございます。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。よろしいですか。

では、次の質問を行ってください。町有林についてということをお願いします。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 今、何になっていますか。

○議長（川上 富夫君） ええ。

○議員（2番 竹茂 幹根君） 何になってますか。

○議長（川上 富夫君） 町有林について、さかやの林地購入についてですが。（発言する者あり）

○議員（2番 竹茂 幹根君） 町有林についての質問をさせていただきます。

昨年9月25日に本議会に契約の締結を、仮契約をして、本契約に承認願いたいということで、さかやの林地購入の件が提案され、そうして、その日に可決になって、議会で承認されて、一応町有林としてされておるわけですけども、私は、このさかやの林地購入について、ここで質問するのは5回目になります。（「5回が6回だぞ」と呼ぶ者あり）5回目です。

○議長（川上 富夫君） 済みません。大建の林地ですが。

○議員（2番 竹茂 幹根君） いや、今、質問です。

○議長（川上 富夫君） そうですか。済みません。

○議員（2番 竹茂 幹根君） それほどこの問題に対して、私はこのことについて再度、いま一度、新町長に聞きたいわけでありまして。それは、9月の9日にさかやの社長が来庁されて、そうして交渉を持ったと。その結果、9月の何日かに仮契約に締結をしたということで、私は紹介者やそういうことにはどうであったかということは質問しましたが、副町長さんが、やっぱり執行部の一員ですから、こういう購入について、当時、副町長として、さかやとの買収交渉について、これに参画され、どうかかわっていられたか、その位置づけと経緯について伺います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） さかやの林地購入についての御質問でございましたけれども、副町長としての当時、その交渉の場に参画していたかと、その位置づけはということですけど、参画しておりません。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

2番、竹茂委員。

○議員（2番 竹茂 幹根君） なぜそういうことを聞いたかということ、やはりそういう町として、

町有林としてその購入をするということについて、今のさかやの7町歩がどれほど町にとって、住民の福祉にとって、他にもたくさん山林はあるわけです。そうして、水源涵養林としては、奥山は大部分が指定されているわけです。とするなら、なぜ1平米130円を出して、そうして約7町歩の林地、818万4円購入したということは、それだけ江府町にとって、住民の福祉にとって必要であったかどうかということについて、私は疑問を持っております。そうして、それは何かというと、住民の福祉にとって必要ない、不要不急の支出に該当はしないかと、こういうふうな観点から物事を見詰めているわけです。そういう意味で、それだけ重要な交渉事ですから、前の竹内町長、重要なあれで、交渉ですから、フィフティー・フィフティーですと。いろいろ説明はされましたけども、私はその説明では納得いかないから5回も質問したんです。さらにきょう行ったのは、それほど重要な、言えば、一つの金を出してやる、どうしてもあの10倍の、大建工業の平米13円、これの10倍の130円というのがどうしても私は納得いかない感がある。そういう点について、副町長としてそれに参画しておらなかったいと、私はちょっとそれを聞いて非常に啞然としたわけです。それほど重要な購入であるとするなら、町有林として、やはりそういう、副町長を含めてそのことについての検討がなされてしかりであったではないか、こういうふうに思うものであります。質問ではありませんが、一応そういうふうな思いで言ってるわけです。

○議長（川上 富夫君） 思いがあったと。ありがとうございます。

以上で竹茂幹根議員の一般質問は終わります。

---

○議長（川上 富夫君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

これをもって散会とします。御苦労さまでした。

午後2時03分散会

---